

木田市長の

どいんと  
コミュニケーション



# 海女と安倍昭恵夫人

Vol.117

第6回海女サミットが、かもめホールと答志コミュニティアリーナで開かれました。昨年、志摩市で行われたサミットに引き続き、今年も首相夫人の安倍昭恵さんが参加してくださいました。同じく参加していた鈴木知事は、盛んに私に「首相夫人が2年連続でしかも泊り掛けで来てくれるなんてあり得ないですよ」と言っていました。確かにそのとおりですが、知事が泊り掛けで2日間出席していただけるといってもまた、稀なことでしょう。

G7サミットがこの地に決まったことについては、さまざまな人達の努力があったと思います。特に最近では海女が日本一多い町であることをアピールしています。



そして今回、海をまもる現役海女戦士「とばあば」がデビューすることになりました。現役で海女として活躍している二人が、鳥羽一郎プロデュースのもと、CDを発売します。オーディションに応募してくれた海女さんは少なかつたのですが、自分がやってみようかと決断したその勇気に拍手を送りたいと思います。もともと度胸は女性の方が有るような気がします。のど自慢などで緊張して震えているのは男性に多いようです。これは私の勝手な印象ですが…。この2人の海女さんはもしかして大ブレイクして、すごい人気者になるかもしれません。なにしろ、私達のライバルはAKB48と言ってるくらいですから。



三世代海女、海女着姿100人で東京へ、吉永小百合さん招致など次々とヒットを放ってきた市職員のアイディアが、今度もうまくいくか、注目です。



Vol.143

12月10日は世界人権デー「わたしがやく」

①シルエトク(地の先) ②モルラン(小さい下り道) このアイヌ語が今の地名になっています。さてどこでしょう? 三重県教育委員会が作成した人権学習資料「わたしがやく」には、三重県が生んだ探検家・松浦武四郎の北海道(蝦夷地)探検から「アイヌの人々の暮らしに学ぶ」「アイヌの人々と武四郎」「北海道旧土人保護法とアイヌの人々」「アイヌの人々に関する新しい法律の制定へ」などアイヌの人々の歴史と人権の問題が取り上げられています。アイヌの人々は、かつて厳しい差別を受けてきました。「二シンだけ食べて働け」「アイヌの3人や5人は打ち殺してもかまわない」とする記述も

あります。石森延男さんの名作「コタンの口笛」では、「アイヌ」というだけで、理由のない差別を受け、貧しさに苦しみながらも清く正しく生きようと、不安と争いの中でたくましく育つ姉と弟が描かれています。「天から役目なしに降臨した物は一つもない、虫でも鳥でも、どんな生き物であっても、食べ物を奪い合う事をせずに分け合って食べていたものでした。しかし、今生きている人達は、その心を忘れてしまい私は大いに憂えています。：アイヌの人の言葉より」とあります。人間の奥底に眠る差別の根(性)を変えていかなければ問題は解決しないのです。

武四郎生誕の地、松阪市小野江小学校では、アイヌの文化がたとの交流を行い、郷土と結びついた人権学習が続いています。

12月4日～10日は人権週間です。市では、1日(火)・2日(水)に鳥羽商工会議所かもめホールで小中学校の人権フォーラムを開催し、児童・生徒代表による各学校の人権学習の交流が行われます。実り多き学びと広がりを感じます。

答え ①知床 ②室蘭